

平成28年度 学校評価実施報告書

幼稚園名(中京もえぎ幼稚園)

1 1回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
	評価項目 (前年度評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・各種指標	
確かな学力・豊かな心・健やかな体	安心・安定した幼稚園生活 教師との信頼関係を基盤とした遊びの充実	一人一人の幼児の変容 アンケート項目「幼稚園生活を楽しんでいますか」	
	自分の思いを様々な表すと見る心の育ち	幼児の思いの読み取り アンケート項目「自分の気持ちを言葉や表情、態度などにより伝えようとしていますか」	
	自己肯定感の育成	アンケート項目「自分の身の回りの始末を自分でやろうとしていますか」「その子なりに何かに挑戦しようとしていますか」	
	他者とのかかわりの中で折り合いの気持ちや信頼関係をもつ	友達と一緒に生活することの楽しさを感じる生活や遊び アンケート項目「教職員や友達とのかかわりを楽しんでいますか」	
園独自の項目	子育て支援の推進	・預かり保育の充実 ・多様な思いに応える保護者支援	・預かり保育の子どもの姿の変容 ・預かり保育計画の見直し ・保護者との丁寧な日々のかかわり
	育成支援教育の推進	・個別にかかわりが必要な子どもの的確な実態把握と適切な援助 ・全教職員での共通理解と関係機関との連携	・教職員研修の充実 ・一人一人への適切なかかわりと環境
	保幼小連携の充実	・子どもの心の育ちをつなぐ組織的な連携と発信 ・小学校での給食参観や生活科における交流	・幼稚園の園内研修に小学校教員が参加 ・幼稚園の発達について小学校の幼小連携研修で発信 ・小学校の生活に幼稚園教員が一日参加

・アンケート実施結果、その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成28年10月21日
評価者・組織	評価委員会	
アンケート結果・各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊ぶ姿の変容(事例検討から) ・アンケート結果「大変思う」「思う」99% 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続した研究主題を設定したことで、教師に意識ができ、子どもの良い変容が見られつつある。 ・保護者アンケートの結果良好 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師自身が遊びを楽しみ創造していくことに課題が見られる。公園の活用など、教師自身が様々なに挑戦していきたい
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども思いを出す姿の変容(事例検討から) ・アンケート結果「大変思う」「思う」100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の発達に応じたかかわりがなされることが大事であることがわかる。子どもから発せられる様々な表現によりそう姿勢が大事である 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが表そうとしていることをどのように読み取っていくのか、さらに事例研修などで深めていく
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの育ちの読み取り(事例検討から) ・アンケート結果「大変思う」「思う」87% ・アンケート結果「大変思う」「思う」100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣の定着に関しては自分の子どもに対する保護者の評価が厳しい、5歳児になると保護者も挑戦とういことはよくわかり、自分の子どもだけではなく広い視野が持てるようになる 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達に応じた生活習慣の確立について、環境を整えると共に、週案に明記していく
<ul style="list-style-type: none"> ・子どものかかわりの姿の変容(事例検討から) ・アンケート結果「大変思う」「思う」98% 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に4歳児で友達とのかかわりを心配する声が多い。友達に目が向き始め子どもも葛藤している大事な時期である 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者にそれぞれの年齢や発達に応じて、様々な感情体験が大事な経験があることを保護者の声と共に伝えていく
<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育への参加の増加 ・保育記録作成及び指導計画への反映 	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育での持ち物の始末ができにくいうことが課題である。午睡やおやつについて子どもたちの実態に応じた取組により改善が見られる 	<ul style="list-style-type: none"> ・持ち物の始末について担任と連携しながら進める ・午睡について後期の生活を見直す
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿の変容 ・教職員研修や関係機関との連携の実施状況 ・個別の指導計画などの作成状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が皆で共通理解する機会を複数回もつことができた 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の連携や配置について子どもの実態やかかわりの時期、保育の計画などに応じて柔軟に対応していく
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の園内研修に小学校教員が参加 ・幼稚園・小学校双方の教員が、互いの研修会に参加することで、互いを知る機会が増え、一步進んだ幼小連携が行われている 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表会に向けてこれまでの実践をどのように見える形で発信していくのか検討する 	

学校関係者評価	
評価日	平成28年10月25日
評価者(いづれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
・よくしてもらっている。毎月のおたよりからもねらいをもって教育してもらっていることがよくわかる。今年度のおおきくみらんどの取組は子どもも楽しそうであった	・今後も引き続き、子どもたちの充実した生活のために協力したい
・地域の大人もみんなが大事にしているという風土を大事に今後も子どもたちを見守っていく	・家庭の中で大人がまずは実践していくことが大事であろう。地域も登下校時の取り組みを引き続き行っていく
・子どもの見通しがもんくいから保護者が不安になるのであろう。パパママティチャーなどの取組でさらに保護者に伝えていってほしい	・その後の見通しがもんくいから保護者が不安になるのであろう。パパママティチャーなどの取組でさらに保護者に伝えていってほしい
・引き続き大事にしていく	・小学校や中学校と様々な取組ができることが公立幼稚園の良さである。地域も協力していく

平成28年度 学校評価実施報告書

幼稚園名(中京もえぎ幼稚園)

2 2回目評価

<p>・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定</p>			
評価項目	(1回目評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標	
安心・安定した幼稚園生活	・教師との信頼関係を基盤とした遊びの充実 ・自ら主体的に生活しようとすることができる環境の見直し	・事例研修による幼児の思いの読み取り ・幼児の姿の変容 ・アンケート項目「幼稚園生活を楽しんでいますか」	・子どもの遊び姿の変容(事例検討から) ・アンケート結果「大変思う」「思う」100%
自分の思いを様々なに表そうとする心の育ち	・様々に思いを表現する幼児の思いの読み取りと幼児理解 ・子ども同士のかかわりをつなぐ援助を重視	・事例研修の子どもの育ちの読み取り ・アンケート項目「自分の気持ちを言葉や表情、態度などにより伝えようとしていますか」	・子どもの思いを出す姿の変容(事例検討から) ・アンケート結果「大変思う」「思う」98%
自己肯定感の育成	・様々な表現の全面受容 ・子ども自身の主体的な活動を支える援助や環境の充実	・アンケート項目「自分の身の回りの始末を自分でやろうとしていますか」「その子なりに何かに挑戦しようとしていますか」	・子どもの育ちの読み取り(事例検討から) ・アンケート結果「大変思う」「思う」94% ・アンケート結果「大変思う」「思う」99%
他者とのかかわりの中で折り合いの気持ちや信頼関係をもつ	・友達と一緒に生活することの楽しさを感じる生活や遊び ・子どもの様々な葛藤体験の大切さへの保護者への発信	・アンケート項目「教職員や友達とのかかわりを楽しんでいますか」	・子どものかかわりの姿の変容(事例検討から) ・アンケート結果「大変思う」「思う」100%
子育て支援の推進	・預かり保育での過ごし方の見直し ・担当教員と担任との連携の強化	・預かり保育の記録の活用 ・預かり保育計画の見直し ・保護者との丁寧な日々のかかわり	→ ・預かり保育への参加の増加 ・転入児などについて配慮
育成支援教育の推進	・個別にかかわりが必要な子どもとの保護者との連携の強化 ・全教職員での共通理解と関係機関との連携	・保護者との実態やねらいについての共通理解 ・一人一人への適切なかかわりと環境	・子どもの姿の変容 ・教職員研修や関係機関との連携の実施状況 ・個別の指導計画などの作成状況
保幼小連携の充実	・接続期において子どもの育ちをつなぐ柱を研究発表で発信 ・小学校での給食参観や生活科における交流	・研究発表会における参加者のアンケート ・入学前後の連絡会での教員間の連携	・給食参観や生活科での交流など、子どもや保護者に好評 ・研究発表会での幼小接続においてさらに小学校との関係が深化

・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年3月6日
評価者・組織	評価委員会	
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
・子どもの遊び姿の変容(事例検討から) ・アンケート結果「大変思う」「思う」100%	・行事などを通して、教師がその時々のねらいをしっかりと子どもたちの良い変容が見られつつある。 ・保護者アンケートの結果良	・主体的な遊びの環境について次年度も引き続き、取り組んでいく。
・子どもの思いを出す姿の変容(事例検討から) ・アンケート結果「大変思う」「思う」98%	・発達に応じた環境の構成や遊びの継続など学年によって課題が見られる。	・教師自身が子どもと共に遊び込むことによって、子どもの内面を理解していくことを次年度以降も引き続き取り組んでいく。
・子どもの育ちの読み取り(事例検討から) ・アンケート結果「大変思う」「思う」94% ・アンケート結果「大変思う」「思う」99%	・生活習慣の定着に関して前期よりアンケート結果が飛躍的に伸びた。 ・公園が積極的に活用できた	・基本的生活習慣の定着を図ることができるよう発達に応じた環境の構成を引き続き検討していく。
・子どものかかわりの姿の変容(事例検討から) ・アンケート結果「大変思う」「思う」100%	・前期に心配の声があった4歳児が、友達とのかかわりの充実と、トラブルの大さを保護者が理解できたとの声があり、少しずつ幼稚園の思いが浸透してきている	・保護者への発信について普段の会話や個人懇談会、学級懇談会などで、より丁寧に伝えていく必要がある。
・預かり保育への参加の増加 ・転入児などについて配慮	・午睡の確保とおやつの改善などにより保護者も喜んでおられる。 ・転入児の保護者との連携により子どもが安定	・保育時間や生活を踏まえた預かり保育の在り方について共通理解したことで、子どもが安定して過ごすことができた。
・子どもの姿の変容 ・教職員研修や関係機関との連携の実施状況 ・個別の指導計画などの作成状況	・様々な成長が見られたが、それに伴い課題も見られた。関係機関との連携、保護者との共通理解が丁寧に行われているケースもあれば、課題が残ることもある。	・成長と共に見えてくる課題や、行事への参加についてなど詳細に保護者との連携が必要である。
・給食参観や生活科での交流など、子どもや保護者に好評 ・研究発表会での幼小接続においてさらに小学校との関係が深化	・研究発表会では多様な就学前施設、高倉小学校の先生のたくさんの参加があり、接続期や幼児期について広く発信することができた。	・今年度の研究を基に次年度以降も継続して接続を充実させていく。

学校関係者評価	
評価日	平成29年3月10日
評価者(いづれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・学校評議員による改善に向けた支援策
・大変好評価をいたたいており、地域としてもうれしい。 ・自由記述をいつものことながら、大変よく書いていただいている。幼稚園の様子を保護者がよく見ていることがわかる。	・今後も引き続き、子どもたちの充実した生活のために協力したい。
・幼稚園は3歳児から5歳児の発達をとらえていると思う。保護者もそのことをよくわかっている。 ・幼児期は一番大事な根幹である。教育方針や目標が実行できていると感じる。	・引き続き大事にしてほしい。
・毎日、保護者と顔を合わせて話ができることが多い大変である。 ・保護者は子育てに不安を感じて、当たり前である。幼稚園がすべてを受け止めでもらうことで安心していく。	・幼稚園に保護者の思いも受け止めさせてほしい。
・様々な思いを幼稚園に聞いてほしい、幼稚園から話してほしいという声も聞く。	幼稚園が担任だけでなく、学年や他の学年、全教職員で連携している良さをいかして、誰にでも相談してもいいということをもつと保護者に伝えたい。
・幼稚園がさらに充実したものとなるよう、時代や社会に合わせて取り組んでいくことは大事なことである。	・協力できることはやっていきたい
・研究を毎年積み上げてきている事は、とても大事な事である	・保護者にも広く発信していってほしい
・小学校との接続が大事にされることには保護者にとっても安心できることである。	・さらに充実させていってほしい

3 総括・次年度の課題

- ・保育の充実について研究を深めていくにつれ、実態やねらいがはっきりし、子どもたちが主体的に夢中になって遊ぶようになった。保育実践と研究と共に充実し、互いが相互に高まっていくことを教員自身が実感できた。
- ・幼小接続について、幼児期に大事にしたいことを主軸にしながら、心の育ちをつなぐ接続期について小学校や他の就学前施設に広く発信出来た事がよかつた。
- ・預かり保育は、昨年度の研究を基にして、子どもたちのための生活ができていることで、子どもも保護者の安心して利用している。引き続き、担任、担当者、保護者が連携しながら充実を図っていく。